（環境） 六ツ美南部小学校　4 年

六ツ美南部学区を住みよい環境にしよう　（9 月～3 月　60時間）

1　ねらい

・六ツ美南部学区を中心とした環境問題に関心を持ち，学区を住みよい環境にするために意欲的に活動することができる。

・自分の課題を見つけ，その解決のための方法を知り，調査活動や話し合い活動を通して，自分の考えを深めることができる。

・個人やグループで調べてわかったことをまとめ，発表することができる。

2　実践の概要

4 年生の 1 学期に，社会科の授業で中央クリーンセンターを見学した。多量のごみが集まる様子や，まだ使えそうなものがごみとして捨てられる現実を見て，ごみについて関心をもつ児童が多くいた。2 学期に，「むかしのくらし」の学習で，本校学区の現在の写真と昔の写真を比べてみた。昔の写真には，豊かな自然が残っていた。昔と比べて，今は環境が悪化しているのか。その原因は何か。学区を，より住みよいところにするために自分たちができることはないか。こうしたことを追究していった。

追究は，まずは個人で課題を見つけ，図書資料やインターネット資料，聞き取り調査などで調べ学習を進めた。各児童の課題は，地球温暖化，酸性雨，オゾン層の破壊，絶滅動物の危機，リサイクルなど多岐にわたった。2 学期末に，それぞれ調べたことを新聞にまとめ，発表会を行った。その後，発表の内容をもとに話し合い，クラス全体で取り組む課題として，広田川の浄化を取り上げることとなった。実際に広田川に出かけ，水を採取してきて水質を調べた。また川の生き物を把握して，専門家に聞き，広田川の汚れ具合がどの程度かを調べた。そうした活動を通して，児童の「学区を美しくしたい」という思いは高まってきたようだった。調査活動の結果，水質の汚染よりも不法投棄による周辺のごみが問題であることがわかってきた。そこで，「広田川クリーン大作戦」と銘打ってグループごとに話し合い，作戦を計画していった。

◇　教師の支援

児童の話し合いを活発化するために，学習カードに自分の考えを書かせて，よい考えには教師が朱書きをして発言を促すようにした。また，児童の発言のかかわりがわかりやすくなろように板書の仕方を工夫した。また，図書室から関連図書を持ってきて教室に「総合コーナー」を作り，日常的に調べ学習に取組みやすい環境を作った。話し合い活動や調べ学習に慣れていない児童たちであるが，作戦を進めていく中で，課題を明確にし，関係機関に連絡して質問をするなど，主体的に問題を解決しようとする姿が見られるようになってきた。

3　実践を振り返って

活動開始当初は疑問点があっても，どのように解決していけばよいのかわからない様子の児童であったが，教師の支援と話し合い活動により，次第に主体的に問題を解決しようとする姿が見られるようになってきた。しかし，環境に関する子供達の多様な関心から、適切な追究課題を絞っていくことの難しさを感じた。また、学区の人材を活用して学習を進めていくことについても、まだ学習環境の整備が十分ではないので、今年度の反省を生かして今後につなげていきたい。